

令和7年度 第2回学校協議会 会議録

1 日 時 令和7年12月8日(月)18時30分

2 場 所 産業高校会議室

3 出席者

(1) 学校協議会委員(50音順 敬称略)

産業高等学校同窓会副会長	北野 好美
日本継手株式会社・総務部長	信貴 政則
岸和田市中学校校長会会長・山直中学校校長	倉垣 裕行

(2) 学校(事務局)

校長	安井 孝
全日制教頭(司会)	齋藤 良房
定時制教頭	榎本 正広
全日制商業科長	涌嶋 亨
事務長(記録)	橋本 純

欠席者

産業高等学校元PTA会長	赤堀 潔
産業高等学校PTA会長	南 友美

4 次第

1. 校長挨拶

令和10年度入学生の入試から制度改正があり、府内の公立高校で学校特色枠が設けられる。本校においても、商業科と情報科で学校特色枠を設けることになった。

2. 会長挨拶

インフルエンザが流行しているが、企業でインフルエンザより脅威なのがサイバー攻撃。最近でも大手飲料メーカーが身代金目的のランサムウェアの攻撃を受けたということで、業務にも支障を来たすしブランドイメージにも傷がつき、甚大な被害を受けている。大規模なセキュリティ対策をしたにもかかわらず事故にあっているのが恐ろしい。

ランサムウェア被害の7割は中小企業と聞く。被害を受けたら平均で2億～3億の損害と。社内でもセキュリティ対策を打っているが、そこをかいくぐって入ってくることもある。学校においても、もし同様のことになるとうどい風評被害を受ける。十分注意いただきたい。

3. 「市民公開講座の取り組みについて」

・本校の特色を知っていただきたいという思いで、市民公開講座を実施している。本校では、パソコン講座、アーチェリー講座、ものづくり講座を実施している。

【パソコン講座】

- ・講座としては、1講座5回ずつでWordとExcelの初級と中級を開設している。簡単な文章入力ができる方を対象とし、タイピングが1つもできないという方は遠慮いただいている。初級は、Wordでは文字を打つだけでなく、Wordで使える色々な機能を一緒にやってみましょう、Excelであれば数字を打ち込むだけでなく、関数を使ってみようという感じで行っている。講座中は、講師の他にも2人のサポートがついているが、お隣同士で教え合いしながら和やかな雰囲気である。
- ・中級になると、実際の検定試験に対応した本校の生徒が受けるような全商2級の問題集を使って、実際に問題を解いていく。受講者の多くの方は、初級が終わった時点で「中級も必ず行く」「いつ頃広報に載る？」と話しかけてくださる。
- ・また、QRコードを作る練習は大変好評だった。受講生も仲よくなっていて、他の受講者に紹介したいものをQRコードを作って紹介していただくなど、色々な機能を勉強しながら受講者の交流も生み出している。

【アーチェリー講座】

- ・本校には、アーチェリーでオリンピックに出場した経験を持つ教員がいる。「元オリンピック選手が丁寧に指導します」といった広報をしている。
- ・小学校4年生から中学校3年生までを対象に全10回の講座を実施している。アーチェリー部員も協力して基本から学び、始めは短い距離から伸ばして最終的には10メートル先の的を狙う。11月に開催する市民大会を目標としている。
- ・この市民講座の受講をきっかけに本校に入学したり、アーチェリーに関わって世界大会に出場した人もいる。

【ものづくり講座】

- ・デザインシステム科が主体となり、小学生対象に夏休みの自由研究のお手伝いということで、1日のみの講座である。
- ・今年は親子6組の参加を得てスクリーン印刷を実施した。トートバッグにあらかじめ用意した絵柄のパーツを組み合わせてオリジナルのデザインを作っていく。ともすると保護者の方が熱中して「自分でやる」となりがちなので、保護者には別の役割を与え、子ども主体の作品となるよう工夫している。
- ・市民公開講座を通じて多くの市民の方と会話する機会ができ、教えるだけでなく、本校の魅力を伝えられるのいいと思っている。関わる教員や生徒も、人に教える中で自分も振り返ることができ、成長につながっている。

●質疑応答

(委員) 市民講座は以前からやっていたのですね、知らなかった。

(事務局) かなり以前から実施しており、過去には簿記講座をやっていた時期もある。

(委員) 市の広報にも受講生の募集が載っていたとは気付かなかった。

(事務局) そういうご意見があるようなら、私たちも広報のやり方は工夫しないといけない。逆に知っている方の中には常連になる方もいる。

(委員) 小中学生の時にアーチェリー講座に参加されて、その後に産業高校に入学された方はいるのか。

(事務局) 多くはないが、いる。

(事務局) パソコン講座などの成人向けの講座で本校のアピールと市民への還元を行うという面と、アーチェリーやものづくり講座などの子ども向けの講座で本校を知り、進学のきっかけにもらえる面がある。

(委員) 産業高校に関心を持ってもらうことは大事。それがきっかけで学校を選んでもらえれば嬉しい。

(事務局) 教員にとっても、普段は生徒に教えているが、大人の方を相手にするのは新鮮でよい刺激になる。

(委員) 市立高校として魅力や特色の発信は恒久的な課題。色々な形でやっていければ良い。

4. その他

【定時制の取り組み】

- ・毎年1回、産高定時制だよりというチラシを出している。中学校や公民館に置かせていただき、定時制の生徒が頑張っている様子を色々な方に見ていただけるようにしている。そのチラシにも掲載しているが、広報きしわだの12月号で産業高校定時制の特集をしてもらった。生徒にもインタビューに協力してもらった。
- ・広報きしわだのインタビューに答えてくれている女子生徒は現役の3年生。中学校の頃はほとんど学校に行けなかったと書いているが、どういう思いで本校の定時制に来て、どういうことを勉強して今どうなっているのかということに答えてくれている。この生徒は、いろいろな検定を頑張り、就職も1発で決まった。
- ・男子生徒の方は、この春に卒業した生徒。この生徒も「朝起きられない」「全日制には通えない」ということで本校の定時制に入学してきたが、大学に行きたいという思いで3年間頑張った。夏休みも含め、ほぼ毎日のように先生を捕まえ授業以外にも勉強を頑張り、近畿大学の生物理工学部合格した。今年の体育祭の時に来てくれてインタビューにも答えてくれたが、今すごく楽しいと。そして産業高校で学んだことが役立っているという話をしてくれた。
- ・もちろん、すべての生徒がこんな子ばかりというわけではないが、ほとんどの生徒は3年間頑張って卒業に結びついている。卒業する時にはいい顔をして、本校に来てよかったと言って卒業していつてくれるのは我々の励みにもなっている。

(委員) このインタビューに答えてくれた男子生徒は、卒業式で覚えている。

(事務局) この生徒は大阪南部から通学していた。近畿大学の生物理工学部なので、家から近くなったそうだ。今年の3年生も全員進路が決まり、今年も近畿大学に合格した生徒がいる。

(委員) 3年生に外国籍の生徒はいなかったか。

(事務局) 3年生にはいないが1、2年生には在籍している。母国の事情もあり卒業までいけるか分か

らない生徒もいるが、今は頑張って通学してくれている。

(事務局) 全日制もそうだが、定時制も卒業生の子どもが入学してくるケースは多い。親子やきょうだいなどで。そうして評価していただけるのはありがたいと思う。

(委員) 広報の文言がいいですね「とにかく先生方がすばらしい」と。こう言ってもらえると先生方もやりがいがある。

(事務局) 広報だからというのはあるが、2人とも笑顔がいいですね。良い宣伝をしてもらえたと思う。進学も多種多様になって通信制が増え、定時制も難しい中ではあるが。

定時制もかつては1学年2クラスで80名弱の生徒が在籍していたが、今は1クラスで20名程度。少しさみしいけれど、20名だからできることもある。少ないから手が届くしサポートがしやすくなるので、そこが定時制の売りだと思う。良いところを伸ばしつつ、アピールもして本校が残れるように頑張っていきたい。

【今後の行事予定】

(事務局) 3学期は全日制が2月、定時制が1月に修学旅行を予定。全日制は沖縄、定時制は北海道に行く。それが終われば入試が始まる。

(委員) 先生方には、体調にご注意いただきたい。

19時20分終了

※次回は3学期後半に開催予定